平成30年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	ゼミナールⅢ (Seminar Ⅲ) 【栗延ゼミ】			授業コード	E002633
担当教員名	栗延　孟			科目ナンバリングコード	E31203
配当学年	3	開講期	通年		
必修・選択区分	必修	単位数	4		
履修上の注意または履修条件	人間力の育成に必要な科目ですので、必ず受講して下さい。担任制の授業です。				
受講心得	ゼミは発表・討論を通じて学ぶ場であり，自分の考えていることを相手に正確に伝えることを意識的に行っていきます。そのためにも問題を明確化するとともに，積極的な参加を期待します。				
教科書					
参考文献及び指定図書	その都度紹介します。				
関連科目	社会福祉調査法，福祉経営論，社会福祉原論，高齢者福祉論，障害者福祉論，児童福祉論，地域福祉論，社会保障論など				

授業の目的	近年の我が国では，少子高齢化社会を本格的にむかえ，社会福祉の転換期を迎えています。こんにちの福祉においては，利用者の自立支援，利用者による選択や契約等による福祉サービスの利用，権利擁護，第三者評価による福祉サービスの質の向上，地域福祉活動の拡充などが求められています。 そのために必要なこととして，様々な企画，活動に「根拠」が求められています。 このゼミナールでは，どのようにしてその「根拠」を見出すのか，その方法の習得を目指します。
授業の概要	ゼミナールⅡで学習した内容を踏まえて，本格的な調査・インタビュー・実験等を行い，ニーズの調査や実際に行われている活動の評価などを行います。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第 1 週 ： オリエンテーション 本講義の目的および内容等ついて説明します。また，履修状況の確認を行います。	予習：講義の目的等についてシラバスを確認する 復習：配布資料，板書等をもとに要点をまとめる
第 2 週 ～ 第5週：調査法の復習 ゼミナールⅡで行った調査法についての復習を行います。それぞれ，担当分野を決め，学生通しで教えあうスタイルで行います。	予習：ゼミナールⅡで学習した内容を確認する 復習：配布資料，板書等をもとに要点をまとめる
第 6 週 ： 実験計画法 実験計画法について説明します。施設等で行われる取組が，個人や組織にどのような影響を与えるのか抽出する方法を学習します。	予習：実験計画法について学習する 復習：配布資料，板書等をもとに要点をまとめる
第 7 週 ～ 第11週：実験実習 実際に，実験を行い，分析，レポートの書き方を学習します。	予習：指示された分析，レポート等を作成する 復習：指示された分析，レポート等を作成する

第 12 週 ～ 第14週：インタビュー実習 実際に，インタビューを行い，質的データの分析，レポートの書き方を学習します。	予習：インタビューテーマを決めておく。指示された分析，レポート等を作成する 復習：指示された分析，レポート等を作成する
第 15 週 ： 卒業論文仮テーマ決め 卒業論文のテーマを何にするのか，これまで学んできたことの中から，興味のあるテーマを決め，仮テーマを設定します。	予習：卒業論文のテーマを考えておく 復習：夏休み中，情報収集を行い，卒業論文のテーマを確定する
第 16 週 ： オリエンテーション，卒業論文テーマ確定 履修状況の確認と，今後の授業について説明します。また，夏休み中に考えてもらった卒業論文のテーマを発表してもらいます。	予習：講義の目的等についてシラバスを確認する。卒業論文のテーマを確定しておく 復習：先行研究を調査する
第 17 週 ～ 第18週：研究方法の検討 決定したテーマに対して，どのような方法で研究を行うのか（調査，実験，インタビュー）検討し，研究計画を作成します。	予習：研究方法について，あらかじめ考えておく 復習：先行研究を調査する。研究計画の作成
第 19 週 ～ 第22週：研究準備 先行研究の調査，質問紙の作成，実験環境の構築，インタビュー質問項目の作成などを行います。	予習：各自，これまで学習した研究法についてまとめておく 復習：実際に使う質問紙やインタビューの質問項目，実験材料等を集める
第 23 週 ～ 第27週：研究実施 研究を実施し，データの収集を行います。	予習：研究計画，研究材料を確認しておく 復習：得られたデータを分析できる形に整理しておく
第 28 週 ～ 第29週：データ分析 データ分析を行っていきます。	予習：データの整理を行い，分析できるところは分析しておく 復習：得られたデータから，どのようなことが言えそうか，準備をしておく
第 30 週 ： 振り返り・まとめ データ分析の結果，そこから何が言えそうか，卒論の大枠のストーリーを考えます。	予習：進捗報告準備 復習：卒論のストーリーを考え，さらに先行研究を調査しておく
（1）授業の形式	「演習等形式」

授業の運営方法	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目	カテゴリー Ⅲ：地域における課題解決に必要な知識を修得する科目	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	ゼミ内の発表に積極的に参加することができる。
【知識・理解】	社会調査法について理解している。
【技能・表現・コミュニケーション】	ゼミ内の討論において，自分の考え・意見をメンバーに伝えることができる。 社会調査を実践できる。
【思考・判断・創造】	

○成績評価基準（合計100点）			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等（テスト）	レポート・作品等（提出物）	発表・その他（無形成果）	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		35点		
【知識・理解】 ※「専門能力〈知識の獲得〉」を含む。		30点		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力〈知識の活用〉」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		35点		
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。				

（「人間力」について）

※以上の観点に、「こころの力」（自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力）と「職業能力」（職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力）を加えた能力が「人間力」です。

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等（提出物）	講義でのレポートおよび講義への参加状況をもとに総合的に判断します。 [Sレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。 [Aレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。 [Bレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。 [Cレベル]単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。
発表・その他（無形成果）	